

## 願われて 照らされて

### お陰さまで 生かされる

先月、家族で札幌市内のホテルに宿泊しました。子どもが冬休み中、家族でどこにも出かけていなかったので妻と相談した結果、家から車で20分の市内のホテルに宿泊することになりました。宿泊当日は法務がありホテルにチェックインしたのは夕方6時過ぎ。すぐにホテルのレストランに夕食を食べに行きました。レストランはとても天井が高く開放的で、料理も沢山あり、どれもとても美味しそうです。欲張りな私は何度も何度も料理を取りに行きました。普段、家で食事を食べる時はそれほど沢山の量を食べないのに、こ

願われ

照らされ

お陰様で

生かされる



ういう時は「食べなければ損だ！」と思ってお腹が一杯になつていても無理して食べるのです。宗祖はそのような私のことを「凡夫」とお示しくださっています。

「凡夫といふは無明煩惱われらが身にみちみちて欲もおほくいかりはらだちそねみねたむころおほくひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらずきえずたえず」『一念多念文意』

「凡夫は、命終わるその瞬間まで、煩惱から離れられないものを言う。すべてのこと私中心にみて争いをおこし、欲望・怒り・妬みに、心と体を悩ませ苦しみ続ける。仏法に出あうとき、煩惱に満ちみちている凡夫は、他の誰のことでもなく、この私のことと気づかされる。念仏申すひぐらしの中に、ありのままの私の姿を見せていただく。』『拝読 浄土真宗のみ教え』

仏法に出あうとき、阿弥陀様に願われていることに気づく私、そして阿弥陀様にいつも照らされている煩惱具足の凡夫の私の本当の姿に気づかせていただき、お蔭様に生かされている私に気づかせていただくのです。合掌